



2025年1月29日

各 位

会 社 名 第一工業製薬株式会社
代表者名 代表取締役社長 山路 直貴
(コード番号 4461 東証プライム市場)
問合せ先 上席執行役員 戦略統括部長 坂本 真美
(TEL 075-276-3027)

新中期経営計画「SMART 2030」について

当社グループは、2030年3月期を最終年度とする5カ年の新中期経営計画「SMART 2030」(以下、新中計「SMART 2030」)を策定しましたので、お知らせいたします。

1. 経営環境と「FELIZ 115」計画の振り返り

2030年に向かう世界経済は、年平均約3%の成長が見込まれます。特に、アジアにおける中国とインドの高成長が予測されています。半導体関連の電子材料市場は急成長し、2030年には709億米ドルに達する見通しです。化学業界では、環境負荷の低減と循環型経済への転換が求められます。バイオ素材の開発、リサイクル技術の革新、エネルギー効率の向上、GX、DXの推進です。一方で、日本の高齢化は深刻で、2030年には65歳以上の人口割合が約3割に達し、労働力不足や社会保障費の増大が課題となります。

前中計「FELIZ 115」計画を振り返ります。2021年3月期～2022年3月期は、事業ポートフォリオ見直しにより、既存事業の利益が改善しました。2023年3月期は、売上高が過去最高に到達したものの、新型コロナウイルスやウクライナ侵攻の影響で経済は停滞、原材料・エネルギーコストが上昇し目標は未達となりました。2024年3月期以降は、ハイエンドサーバ向け光硬化樹脂材料の好調を主に業績は大幅な回復基調にあります。2025年3月期の第3四半期決算は、売上高542億円(前年同期比：+86億円)、営業利益38億円(前年同期比：+32億円)を計上しました。

2. 新中計「SMART 2030」の概要

(1) めざす理念

企業価値のさらなる創造を行い、行動規範を整え人財の充実に取り組みます。「ユニ・トップ」、「サステナビリティ」、「チャレンジ」の3つをキーワードとし、人的資本を含む無形資産の最大化と企業の成長を連動させる変革実行を骨子とします。

「SMART 2030」のロゴで、「ユニ・トップ」は「山頂＝独自性でトップ」、「サステナビリティ」は「緑の葉＝持続可能性」、「チャレンジ」は「矢印＝挑戦」を表します。



項目	方針
ユニ・トップ	規模を追わず独自性でトップになる
サステナビリティ	環境・社会・ガバナンスに配慮し、持続可能な成長を促す
チャレンジ	協働力と柔軟性を持ち、技術革新と環境対応に挑む

(2) 新中計「SMART 2030」ロードマップ



(3) 経営目標

	FELIZ 115	SMART 2030	
	【見通し】 2025年3月期	【Phase1】 2027年3月期	【Phase2】 2030年3月期
売上高	730億円	810億円	1,000億円
営業利益	50億円	65億円	100億円
営業利益率	6.8%	8.1%	10.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	25億円	35億円	50億円
総資産回転率	0.7	-	1.0
ROE	6.5%	8.0%	10.0%
ROIC	4.8%	5.5%	8.0%
売上高研究開発費率（連結）	5.2%	5.3%	5.3%
新製品化率（単体）	3.3%	12.0%	25.0%
労働生産性（単体）	2.2百万円/人	4.7百万円/人	9.7百万円/人
GHG排出量削減（対2013年）	12%削減	18%削減	30%削減



【算出基準】 新製品化率（単体）：過去3年間に製品化した製品の売上高/売上高
労働生産性（単体）：営業利益/従業員数 = 1人当たり営業利益

(4) 基本方針

- ①組織は事業本部制を導入し、営業・研究一体となった分野別の事業部を設置します。お客様の課題解決や新たな開発テーマに対し迅速に対応できる体制を整えるとともに、事業責任を明確化した組織運営を進めます。
- ②経営直轄組織として生産技術研究所、京都中央研究所を設置し、研究開発強化とスピードアップを図ります。取り組むテーマを短期、中・長期に分け、開発期間を短縮し事業効率と競争力を高めます。
- ③新人事制度を導入することにより、労働生産性向上を図ります。成果が正当に評価される評価制度を構築し、社員の成長がすなわち企業の成長につながるよう人財育成に注力します。チャレンジした社員が賞賛される企業風土醸成を推進します。

3. 成長戦略

(1) 従来の材料別6セグメントから分野別「電子・情報」、「環境・エネルギー」、「ライフ・ウェルネス」、「コア・マテリアル」の4セグメントへ変更します。各分野の特性に応じた戦略立案、ステークホルダーの事業内容理解促進、効率的な管理・分析を可能にし、企業の成長を促進することが目的です。



(2) 「FELIZ 115」最終年度から「SMART 2030」前半2年を【Phase1】、後半3年を【Phase2】とし、2030年3月期売上高1,000億円、営業利益100億円をめざします。

【Phase1】過去を超える <既存：再生、新規：創成>

- ✓ 霞工場など現有資産の活用最大化
- ✓ 新規開発促進、販売数量増加（電子材料・糖誘導体・ディスプレイ材料）
- ✓ ライフサイエンス事業の黒字化に目途

【Phase2】未来へ翔ける <既存：生存、新規：成長>

- ✓ 新規開発の事業化、収益化（半導体材料、電池材料、においビジネス）
- ✓ 注力分野の開発促進、設備投資（電子・情報、環境・エネルギー、ライフ・ウェルネス）
- ✓ 総資産回転率1.0回



(3) 環境貢献型製品の開発、GHG 排出量削減などサステナビリティを意識した GX 戦略を推進し、企業価値向上に努めます。

(4) 115 年を越える歴史の中で、幅広い産業分野へ材料提供していることが当社の強みです。界面活性剤を代表とする保有技術をもとに、各分野の事業領域で 2030 年 3 月期の目標値をめざします。



4. 結び

当社は、「ユニ・トップ」戦略を掲げる研究開発型企业であり、お客さまのニーズにお応えし総合提案力で選ばれることを目標としています。社員の成長とチャレンジを重視し、取り組み意欲の向上と健康経営を推進します。

地球温暖化、資源の枯渇など環境問題、少子高齢化などさまざまな社会課題が私たちの暮らしを取り巻いています。当社は、新中計「SMART 2030」達成に向け、環境や生活の安全性や快適性などを高めるため、「こたえる、化学。」を追求します。

皆さまのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

※新中計の詳細については、別途、説明の機会を設ける予定です。

<参 考>

中期経営計画「SMART 2030」説明資料：

HP（NEWS 一覧）掲載 <https://www.dks-web.co.jp/news/?code=ir>

以 上